

第6回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第6回環境保全協議会では、前回お示しした環境影響評価の予測手法に基づいた動植物重要種への環境保全方法、ダム供用時の影響の検討等について、詳細を説明し御意見をいただきました。

具体的には「第5回協議会における指導事項と対応」「早春期の環境調査結果」「動植物重要種の環境保全方法」「ダム供用時の影響の検討」「今年度の環境調査予定」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。

記

1 日 時 平成22年 7月22日(木) 14:00 ~ 16:10

2 場 所 最上広域交流センター「ゆめりあ」会議室

3 出席者 12名(全員出席)

中島委員長、伊藤委員、今井委員、梅田委員、大場委員、萱場委員、岸委員、小林委員、柴田委員、原委員、横倉委員、渡辺委員

4 各委員からの主な御意見

- ・萱場委員：【付着藻類調査結果について】
藻類調査結果について、データが蓄積されている。データの過不足について確認し、得られたデータからどのように環境影響評価の検討を行うのか、とりまとめを行う段階ではないか。
- ・原 委員：【付着藻類調査結果について】
今後、年間を通して実施する調査結果も踏まえて、とりまとめをしてほしい。特に、水温との関係に着目するといいのではないか。
- ・今井委員：【動植物重要種の環境保全方法について】
サンバ(重要種)、クマタカ(陸域上位性)、ヤマセミ(河川域上位性)の各保全措置・配慮事項について、適切である。
- ・横倉委員：【昆虫類調査結果、動植物重要種の環境保全方法について】
ヒメギフチョウは、当該地域には生息していないという良い。マグソクワガタは、試験湛水により一時的に生息が確認されなくなったとしても、湛水域上流部で本種の生息が確認されていることから、移植等の対策を行わなくても、比較的早い段階で湛水域での生息が回復すると思われる。ワタナベカレハ、マグソクワガタについては、移植が適切な保全方法であるかは不明である。保全対策を行った前例があるかどうか、その効果がどうだったかを確認した上で、必要であれば対策を検討することでよいのではないか。
- ・萱場委員：【ダム供用時の影響の検討について】
アユへの影響を検討する上で、餌をはむ瀬の条件(流速・摩擦速度)がわかると非常に有用である。自然河川におけるアユの忌避行動については研究事例がなく、専門家の意見を伺うほかない。石田先生のご意見は大変有用である。
- ・梅田委員：【ダム供用時の影響の検討について】
濁りのシミュレーションについてはよく示されている。予測は非常に難しく、あくまで計算値・予測値である。ダム供用後に必ずこうなるといわけではないが、シミュレーションを行う上での検証も適切に行っており、傾向としての信頼性はあるだろう。

